様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目		保健医療学特論	（概要）保健医療学は、人々の生涯を通じての健康管理を補助し、疾病時には早期の健康回復を促す為の最適な援助方法を研究する学問、つまり人々の健康を維持・向上させるための方法を実践的に提供すること目標とする学問である。また、生涯を通じて健康的な生活を送るには、日常生活のみならず社会生活を活動的に送ることが必要となる。現在、就労人口の減少により、障害者や高齢者が働ける社会の実現が求められており、障害者や高齢者の就労支援に対する取り組みは、保健医療分野においてこそ取り組むべき課題である。 この保健医療学特論では、保健医療学の重要性と役割、およびそれを実践する上で考慮すべきリスクと、その基礎となるリハビリテーションと看護の融合・展開について、プレゼンテーションやディスカッションを交えて学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） （全4回）保健医療学の重要性やそれに伴うリスク要因、障害者や高齢者の就労におけるリスク要因について学ぶ。 （全4回）保健医療学におけるリハビリテーションと看護の融合とその展開について学ぶ。	オムニバス方式
共通科目		生活支援リハビリテーション特論	（概要）地域包括ケアシステムの確立と維持に向けて、幅広い観点で対象者の障害受容及び就労支援に取り組むための生活支援に関する理論を理解する。具体的には職業準備ピラミッド等である。また、地域リハビリテーションにおけるマネジメントの概要を理解し、連携推進者として必要な能力を培うことを目標とする。（オムニバス方式／全15回） （オムニバス方式／全15回） （全3回） SDGsの目標達成に向け、障害者が積極的に社会に参加・貢献できる共生社会を実現させるために、医療者にとって必要な支援方法について教授する。さらに、高次脳機能障害者の支援の実際を例に、グループワーク形式の議論を行う。 （全3回） 　超高齢化社会を迎え、SDGsの目標達成に向け健康寿命の延伸が叫ばれている。高齢者が元気で長生きし、積極的に社会に参加・貢献できる共生社会を実現させるために、医療者にとって必要な支援方法について教授する。さらに、「自助」「互助」の考え方を含めた介護予防の実際の例を、グループワーク形式の議論を行う。 （全2回） 障害者や高齢者が社会の中で役割を果たすための支援の視点として用いられる、職業準備性ピラミッドの考え方を持ち、地域での社会復帰支援を統括的にマネジメントできる能力を身に着けられる様、その内容を教授する。また、ピラミッドに含まれる対人技能と基本的労働習慣、職業適性に関しては、その評価方法について実例を用いて議論する。 （全4回） 地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーションの概念及び地域リハビリテーションのサービスとその特徴について教授する。また、リハビリテーションの質改善におけるエビデンスの活用に組織的に取り組むための方法を教授する。さらに地域連携推進者育成に向けて、組織マネジメントの基礎知識とコンピテンシーとその育成方法について教授する。 （全3回） 　職業準備性ピラミッドにおける対象者の健康管理と日常生活管理に必要な知識と実際について、主に障害者の服薬管理や症状管理を含むセルフコントロール等について教授する。また、チームマネジメントを高める方法について、ファシリテーション技法や多様な対話手法について教授する。	オムニバス方式

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目		研究デザイン特論	（概要）　研究をデザインする上で必要な知識を学修し、研究倫理・研究公正に基づいた適切な評価・判断能力を修得する。研究者個人および研究に関わる集団としての研究倫理、生命を対象とした研究に関する倫理指針を理解するとともに、研究計画の立案から、研究資金獲得、データの取り扱い、共同研究、研究結果の発表に至る一連の研究活動について研究公正が求められる事項について理解する。これら知識を基盤として、大学・企業研究者の研究デザインの実例について学修して議論を深め、独立した研究者としての責任ある研究活動を実施していくための素地を培う。 （オムニバス方式／全15回） （全6回） 研究公正（研究計画、公的研究資金の獲得と適切な使用、クラウドファンディング、データの取り扱い、統計処理、企業との共同研究・利益相反、研究における不正事例）、研究デザインの実例（医療工学的な研究開発の実例、予防安全技術に関する研究開発の実例） （全7回） ガイダンス、研究倫理（研究者に必要とされる倫理的意思決定、歴史・事例から学ぶ、研究チームの構築と研究体制、集団としての研究倫理、ピア・レビュー、動物実験における生命倫理）、研究成果の発表と公表、研究デザインの実例（健康増進に関わる解剖生理学的研究の実例、再生医療などの先進医療研究の実例） （全2回） 研究倫理（ヒトを対象とした研究における研究倫理）、遺伝子医療、研究デザインの実例（脳発達や脳機能に関する研究の実例）	オムニバス方式
専門科目		医学的診断技術研究	（概要）対象者の問題点を医学的観点から捉える方法を学ぶ。対象者の障害を栄養管理学的観点、健康管理的観点、精神科学的観点を通して診断する技術を理解する。栄養学的診断技術、生化学的診断技術、精神症状学に対する評価診断的技術を学び、対象者の生活を支援できる医療者となることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （全5回） 　対象者の障害を栄養管理学的観点から捉え、栄養障害、栄養の基礎科学、栄養状態の評価、栄養管理について十分に理解したうえで栄養状態を正しく評価し、障害者の生活を支援できる医療者になることを目指す。 （全5回） 　精神症状学を十分に理解したうえで、生物学的な側面も併せて精神状態を正しく評価し、各精神障害者が社会に貢献していることを実感できるような支援を行える医療者となることを目指す。 （全5回） 　心血管系疾患（脳血管障害や心臓病）は、本邦の主要な死因であるとともに身体機能障害や寝たきり状態の要因である。講義では、生命予後の改善と要介護状態の回避を目的に、心血管系疾患の最大のリスク要因である生活習慣病を健康管理的観点から捉え、主に評価診断的技術を学ぶことで生活習慣病の予防対策を立案することを目指す。	オムニバス方式
専門科目		ニューロリハビリテーション研究	（概要）視覚認知や注意や記憶などの認知機能の神経基盤を探るため、特に脳イメージングに焦点を当てた方法論と最新知見を学ぶ。さらに対象者の障害を、筋電図や動作解析の観点から学ぶことで、評価診断的技術の向上を図る。 （オムニバス方式／全15回） （全3回） 　ニューロリハビリテーション総論、脳画像解析に必要な解剖、核磁気共鳴画像法（fMRI） （全6回） 　高次脳機能と脳画像、近赤外分光法（fNIRS）、画像解析方法 （全6回） 　生体運動分析（筋電図・三次元動作解析）	オムニバス方式

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目		生活支援研究	（概要）１，対象者の問題点を生活支援の観点から捉える方法を学ぶ。対象者を取り巻く問題点は幅広く、社会保障の観点や、就職支援の観点、その対象者が社会に適応するときのインフォーマルな観点等、取り巻く環境を調査する手法について理解を深める。また対象者の問題点をとらえる手法として、物語的（ナラティブ）に生活を評価し、対象者の生活を支援できる医療者となることを目指す。 ２，対象者の生活の支援を目指すために、まず人々に起こっている問題の抽出の方法から、多分野（リハビリテーション学と看護学ならびに理学や工学、リハビリテーション関連機器）の学問領域との連携方法と新たな技術開発までの過程を教授する。問題の抽出に当たっては、学生主導で行い自ら考えだす力や、教員や他の受講者との対話から、事象を柔軟にとらえる力を養うことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （全4回） 対象者を包括的にとらえ取り巻く問題点を抽出する方法について教授する （全4回） 対象者の問題点をナラティブな手法を用いてとらえる。またリハビリテーション関連機器の実践、その評価方法について教授する （全4回） 就労支援を必要とする対象者の現状と課題を理解し、就労支援の制度・サービス等の実際について教授する （全6回） 対象者の生活の支援を目指し、看護理工学的手法を用い、問題の抽出からシステムおよび製品開発とその評価方法について教授する	オムニバス方式

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目		生活支援リハビリテーション特別研究	（概要）研究指導教員の指導のもと、研究計画の立案・実施・解析・博士論文作成までの一連の過程を指導する。 （山口明夫） 癌により日常生活や社会生活に制限を受ける患者の、病態解釈に関する基礎研究や、生活再構築から社会復帰へ向けての包括的なアプローチの実践に関する研究指導を行う。 （小林康孝） 中枢神経疾患に伴う運動障害や高次脳機能障害を有する患者が、自立した日常生活を送り、安全性・生産性をもった社会活動を営むために必要な、新しい医療技術の開発や支援体制の確立に関する研究指導を行う。 （林浩嗣） 脳血管障害、神経変性疾患、認知症などの中枢神経疾患により障がいをもった者の栄養状態を調査し、身体機能や日常生活動作の維持に寄与するようなリハビリテーションに関する研究指導を行う。 （小俣直人） 精神障がい者が、社会への貢献も含めた自立的な生活を送れるようになる実践的な取り組みについて、精神疾患に関する生物学的あるいは精神病理学的な視点も鑑みながら立案し、本学および関連機関にて実施する。データを収集し、分析・考察して論文作成の指導を行う。 （供田文宏） 近年増加の一途を辿る生活習慣病の予防と克服のため、地域を拠点とした生活習慣改善の取り組みと実践について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察して論文指導を行う。 （堀秀昭） 障がいを持った者が社会に戻るための環境を調査し、身体機能の維持・向上、健康寿命の延伸に寄与するような支援方法や社会資源の活用に関する研究指導を行う。 （佐藤万美子） 脳血管障害による身体障害者や高次脳機能障害者が、入院生活から社会へ戻り、さらには職業復帰するにあたり障壁となる要因を科学的に分析し、それに対する新しい支援技術を開発する研究指導を行う。 （北川敦子） 創傷関連に起因する健康障害を主軸に置きながら、慢性疾患など生活に影響をもたらす疾患をもつ対象者とその家族が積極的な社会参加を実現するための新しい支援策の開発から臨床評価、さらにこのエビデンスを用いた実装研究に関する指導を行う。 （寺島喜代子） さまざまな健康障害や機能障害を有して病院や高齢者施設、在宅などで過ごす高齢者の健康支援や家族、職員が直面する課題などに関して、文献検討を重ねて自己の研究疑問を明確化し研究計画を立てる。倫理審査の承認を得て、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。 （塩見格一） パソコンやタブレット等を利用した一般的な，また独自のパフォーマンステスト及び，音声分析技術を利用した疲労及びストレスの定量化技術の研究開発を基に，障がい者を含む被験者の日常生活における様々なワークロードの分析とその低減に関する研究指導を行う。 （川端香） 後天性脳損傷による高次脳機能障害を有する患者を対象とし、病態解釈に必要な脳機能に関する基礎研究や、自己認識の促進と社会生活の改善に寄与するような新たなリハビリテーションの開発に関する研究指導を行う。 （藤田和樹） 神経疾患を有する患者や虚弱高齢者の運動機能障害に対して、生体運動解析を基盤に障害構造を解明し、根拠に基づく予防・治療法の考案および開発に関する研究指導を行う。 （猪口徳一） 人体の発生と発達の仕組みについて、最先端の知識と研究技術を修得し、それを基盤として独創性の高い基礎医学研究を推進できる研究者の育成を行う。生化学的解析、遺伝子発現データ解析、遺伝子操作技術などを用いて未知の生体システムを研究することで、エビデンスに基づく医療の推進や、再生医療に向けた新たな生体機能の解明に関する研究指導を行う。	